

柴田鑑三展

- 光臨する森羅 -

会期 = 2008年6月2日(月) - 6月26日(木)

休館日 = 日曜・祝日

開館時間 = 10:00 AM ~ 18:00 PM 入場無料

アーティスト・トーク開催 = 初日6月2日(月) 6:00~7:00pm

会場 = INAX ギャラリー 2

東京都中央区京橋 3-6-18 INAX : GINZA2F

TEL 03-5250-6530 FAX 03-5250-6549

企画・制作 = 株式会社 I N A X

INAX の文化活動ホームページアドレス <http://www.inax.co.jp/culture/>



「山寄りの谷 谷寄りの山 一水」
H2430 × W4000 × D30mm 押出法ポリスチレンフォーム 2007

次回予告

下西 進 展 (映像)

2008年7月1日(火) ~ 7月29日(火)

INAX ギャラリー2では柴田鑑三展(Shibata Kanzo) 光臨する森羅 を開催します。(6月2日～6月26日)

部屋を仕切るように立つ白い壁に、巨大な雪山の等高線のようなレリーフが浮き上がっています。降り積もった雪に光が射した時のように表面はキラキラと光り、近くで見ると、前後からの光に等高線状に細いラインが何本も浮かび上がり、立体的になっているのがわかります。こちらから見ると峻険な山の連なり、反対側から見ると深い底の窪みのかたちに見えます。

柴田鑑三の作品は、11cm 厚の断熱建材・押出法ポリスチレンフォーム板を 1mm ほどの細い熱の針で、数cm単位で切り刻み、それを再構築してつくられた彫刻です。大きさは高さ 180cm、幅 300～900cm ほどで、雪山を俯瞰したような等高線状のもの、雪の結晶パターン、大雪に覆われた森林地帯の樹木の連なり、海中の生きもの遊泳図、都市の密集した迷路などを連想させるモチーフなどがあります。

柴田の作品の特徴は1 mm 単位の精緻な仕事です。複雑に切り刻まれた断層に光が透過すると、樹脂を越えて何かしっとりとした粉末状のものが積層しているような質感に感じられます。光による陰影の階層は、スクリーンに投影された画像のゆらぎのように静かで不思議な存在感です。雪を連想させる素材の特質ゆえ、厳しい大自然を感じさせる壮大なイメージがあり、冴え冴えとそびえ立ち、神々しさすら感じさせます。

柴田鑑三は 2007 年に東京芸術大学大学院を修了した若い作家です。樹脂やアルミニウム、真鍮といった様々な素材で制作をしてきましたが、2006 年から今展のような作品をつくっています。多くの方々にご案内頂きますようお願い申し上げます。

[柴田鑑三プロフィール]

1981 愛知県生まれ

2005 東京芸術大学美術学部彫刻科卒業

2007 東京芸術大学大学院美術研究科修士課程修了

個展

2006 年柴田鑑三展—化身のシルエット (埼玉県立近代美術館)

グループ展

2005 日韓交流プロジェクト[ssugoremigi] (韓国(ソウル)COEX ホール)

2007 2.5 × 4 = (東京画廊)

SPRING BOARD 2007 (東京 上野駅 Break ステーションギャラリー)

三叉路 (東京 銀座 GALERIE SOL)

トーキョーワンダーウォール公募 2007 入選作品展 (東京都現代美術館)

BTAP - Works in Progress (中国(北京)BTAP)

受賞歴

2004 国際瀧富士美術賞特別賞

2005 平山郁夫賞

パブリックコレクション 東京芸術大学美術館